



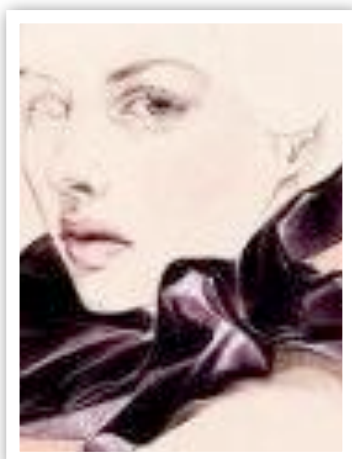
夜な夜な短歌集

2014年 秋号

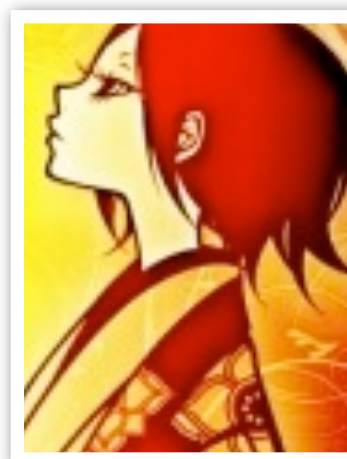
夜な夜な短歌人紹介



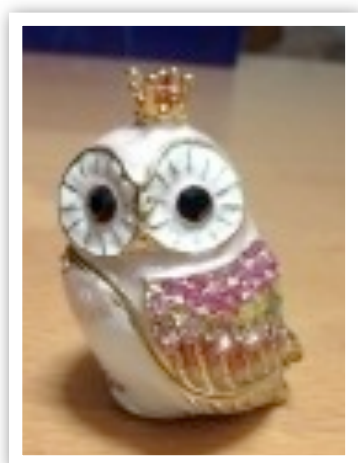
七色一味



せんむ



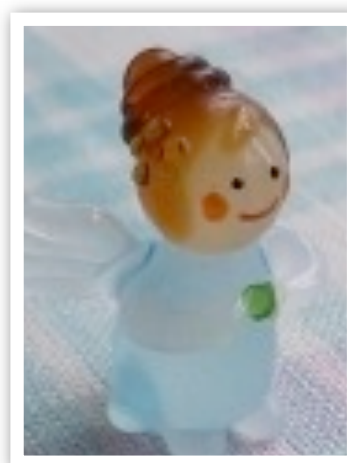
メルクリン



June



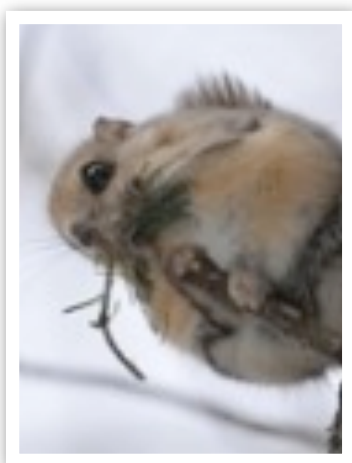
tetsuya



雪



masa



momonga



nonたん

夜な夜な短歌人紹介



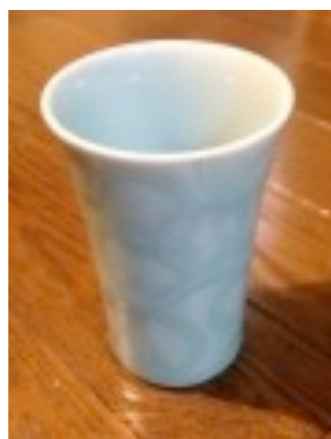
華



新地学



日野成美



Sage



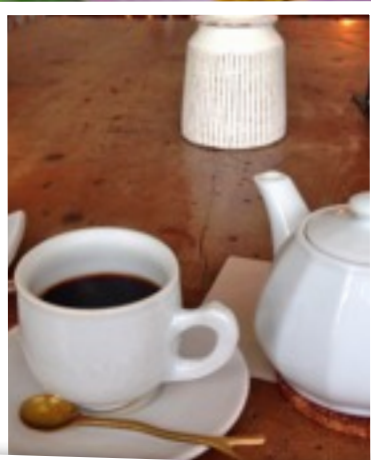
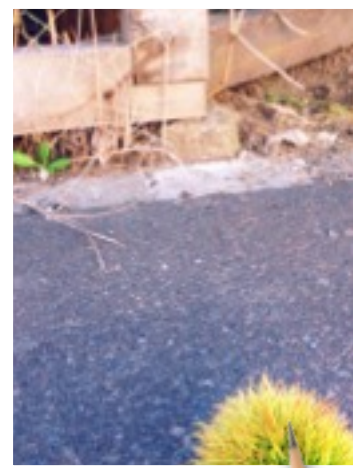
レイ



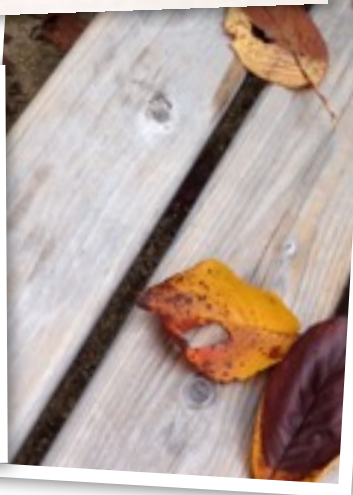
ちゃありい



seri



遠ざかる夏。
残されたのは、わずかな余韻と寂しさだけ。
けれども、その寂しさの中には自然の恵み
や人のぬくもり、そして味わう楽しみがあ
る。だから、秋は侮れない…。



早いもので、『夜な夜な短歌集』も秋号の発刊となりました。いつも前号を作った後は、しばらく時間があると思っているのですが、あっという間に季節は過ぎ去りますね。そして、この数ヶ月でコミュニティのメンバーもさらに増えました。一時のブームかと思いきや、着実に短歌を読む人・詠む人が増えてうれしい悲鳴をあげています。さて、秋号のテーマですが、今回は「失恋」「紅葉」「月」「食」の4つです。秋の景色を眺めながら、是非この秋号も楽しんでいただけたら幸いです。みなさんの心に響く一首が見つかりますように…。

七色一味の短歌

日を隠す青い地球を羨むか赤い世界のウサギが睨む

ぐるぐると星と月とが鬼ごっこ指さすきみのもみじ、齧った

カサコソと散ったあたしの恋みたい風に転がる枯葉が嗤う

せんむの短歌

薄桃の花びら二足に舞ったのに
今は一足うずめる紅葉

りりりりと聞こえてくる何の音？
夕陽が心を震わせる音

陽も帰り遊ぶ子らも頼りなく
母と薄が帰っておいでと

メルクリンの短歌

天高く馬も肥ゆると言うけれど
一年中が食欲の秋

十五夜に縁側すわり月見酒
今年3度も特別な月

新緑も朱く色づく秋深し
風にゆらゆら紅葉ひとひら

Juneの短歌

窓の外金色の葉の間からグレーが覗く外苑のカフェ

声にしたそんな気がして振り返る燃ゆる絨緞、銀杏の並木

くちびるを指でなぞって辿ってる迫るさざ波はらりとひと葉

tetsuyaの短歌

忘れたよもう忘れたよとくりかえす失くした君をまた夢に見て

あの日々をいま大切なものとして思い出すこの苦しみもきつといつかは

長の雨降り止みてふと仰ぎ見る染まり初めにし木々の梢を

雪の短歌

初めての
の大失恋をした
夜に見上げた
らほろりこぼれた
涙

恋心お
おきく膨ら
みすぎた
から壊れる
なんて簡単
だった

陽を受けて
銀杏かがやく
並木道
落ち葉の
シャワーを
浴びに行
こうよ

masaの短歌

黄色いとあのときのこと
思い出す銀杏並木をかすかに別つ

まあるいね満面の笑みに包まれて
流れた涙は月にあげるよ

おいしいね
L 交わせぬことば飲みこんであと
戻りできぬ十月の朝

momongaの短歌

金曜の夜は
T
S
U
T
A
Y
A
が必要で
目蓋が重い
月曜の朝

ぼんやりと
齒磨きしながら
目に入る青は
捨てよう
水曜日には

無視をする
通勤電車が
やさしくて
目元が腫れた
月曜の朝

nonたんの短歌

黄葉に月見団子を重ねても何か足りないきみが足りない

はらはらと白くなっては葉が落ちるぬくもりだけは残してほしい

雨だから褒めてときみに囁いて真紅に欠ける月が消えゆく

華の短歌

敗因はきみの言葉に疑いが存在しないわたくしでした

しんとした月光浴びる体内で死んだ細胞動きはじめ

人々は四季で言い訳 食欲の秋なんだから仕方ないよね

新地学の短歌

ひとひらの紅葉の上の朝露に澄んだ秋空のかけらうつる

闇薫る君の吐息の切なさよ二人の距離を測るすべなし

この月を君も見上げているのなら触れ合っている心と心

日野成美の短歌

ときめいて月の女神にキス送るセンチメンタルわたし八才

歩くほど歩くほどみな黄金なる両手いっぱい銀杏の渦

泣きわめくガチな失恋してみたいわたしのうたのリアルのために

Sageの短歌

降り積もる黄色の絨毯踏みながら並んで歩く外苑の道

明日からひとりぼっちに帰るため夜明けの海を一人で見てる

月餅をウサギが喉に詰まらせてレッドカードが夜空に丸く

レイの短歌

あの月が欲しいとお願いしてみたらほんとに盗ってくれそな貴方

そのままですとしていて月明かり君の隙間を照らしておくれ

秒速で放たれた愛受けとめて私の月がほら満ちてゆく

ちやありいの短歌

君と見た夢があるので情けなく部屋で二人の写真見えます。

君のいない世界に一人残された僕は爆発寸前の火薬が詰まった風船の中で

君の夢ばかり見るので仕方なく今日から少し寝るのをやめます。

seriの短歌

色づいて初めて知ったこの胸に君という樹の根づいた深さ

あふれでる涙たたえたこの星はまわり続ける、恋が死んでも

月影にそっと抱かれてぼやけてくあの人だけがないこの部屋

短歌人からひとこと



七色一味さん

今回のテーマ『月食紅葉失恋』の全てを、本人は一応全て盛り込んだつもりなんですけど、いかがだったでしょうか？あと、秋と言うことで寂寥感がある感じにまとめたつもりです。感想など頂ければ、嬉しいですが。まあ、なくてもいいか（笑）

せんむさん

秋が一番、難しかったですが、いつにも増して楽しく詠えました。私なりの秋の収穫でした。



メルクリンさん

此度は夜な夜な短歌『秋季号』に参加させて頂き誠にありがとうございます。正直、現在の私の詠む短歌レベルではとても人様にお見せできるものか自分でも聊か疑問に感じます(笑)先に参加させて頂いた『さよならを缶にあつめて』をはじめたくさんの方々素晴らしい事を共有しているんだな〜と改めて実感!!『紅葉・月・食』の三首を詠んでおります。

Juneさん

読メのつぶやきに惹かれてはじめた短歌。歌には心を開放する効果があり、詠むことの楽しさを知りました。日々レベルアップする皆様の歌、焦る気持ちも時にありますが、楽しみながら続けていきたいと思えます。



tetsuyaさん

今回は、多忙と体調不良が重なりまして、歌を詠むどころではなく、昔作ったものを掘り返そうにも、テーマに会うものが見つからずなんだかお見苦しいものを投稿する羽目になってしまいました。いや、まったく申し訳ありません。

短歌人からひとこと

雪さん

短歌を始めてから半年が経ちました。想いを言葉にするということは、もしかしたらストレスを減らしているのかもしれないと、この半年を振り返り思う今日この頃です。これからもゆるゆると、短歌と仲良くしていきたいと思っています。



masa

毎回、歌集のうたは迷うのですが、今回は一番詠めず、浮かばず、苦労したような気がします。実際詠みはじめるといつものスタイルなんですけどね。今回は秋ということもあり、失恋歌を紅葉、月、食と連歌のように詠んでみました。



momongaさん

夜な夜な短歌に毎夜ナイスやコメントをありがとうございます。とても励みになります。31文字は奥深く、欲張って迷路に入り込むこともあります。楽しいです！今回は、お題「失恋」から、失恋したての1週間で詠んでみました。



nonたんさん

きみに会ったことが間違いだったのでしょうか…。きみとの思い出は行った街ごとにそこにあり、訪れることが苦痛になるような、でも、また来たいような…。

p.s. 「雨だから褒めて…」 さとちんさん、このフレーズが好きで借用しました。m(_ _)m



華さん

3回目の参加にして最大のスランプでした。特に失恋の歌。続けていると色々欲が出てくるものです。投稿して評価をもらうのを楽しみつつ、夜な夜なで初心を忘れず個性を磨いていきたいです。そして皆さんの歌を読むのが楽しみ！ありがとうございました。



短歌人からひとこと



新地学さん

夜な夜な短歌に参加するようになって、歌を詠むのが生活の一部になりました。自分で一人で詠んでいたら挫折していたと思います。他のメンバーの方の歌が良い刺激になって、歌を詠み続けられています。

日野成美さん

夜な夜な短歌集秋号にお誘い頂いたことをこの上なく光栄に思います。小説を10年以上書いていますが、短歌はまだ半年ほど。夜な夜な短歌集春号に触発されたのがきっかけでした。どうか心に余韻の残るうたができていますように。



Sageさん

《降り積もる》燃えるような赤い紅葉もいいですが、晩秋に真っ黄色に染まる銀杏並木が好きです。《明日から》クレイジーケンバンド『せふてんぼあ』のイメージ。失恋すると無性に海が見たくなるのはどうしてでしょう。《月餅を》赤銅色の皆既月食をユーモラスに。退場したウサギは小一時間ほどで帰ってきたようです。



レイさん

参加させていただきありがとうございます。

「月」の大人のお伽噺です。

続きは皆様で…。



短歌人からひとこと



ちやありいさん

短歌に「これだ!」という答えはない。あえて、ギラギラした一首を外し三首でひとつになるように詠んでみました。皆さんのそれぞれの頭の中で紡いだ、ひとかけらのストーリーが展開されることを期待して。厳しい批評もお待ちしております。そして参加させていただいたことに、感謝。合掌。

seriさん

秋は1番好きな季節です。風は涼しく月は冴え、虫の音ころがり、実りと枯れ、最も贅沢な賑わいと静寂の同居した季節。退廃と成熟の危うい均衡。そんな危うさを儂さを、31文字に組み込めてたら本望です。夏号に続き、参加させて頂きありがとうございました。



※夜な夜な短歌集は、夜な夜な短歌コミュの有志メンバーが集って作成した季刊歌集となります。

※ 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。使用する際は、事前に確認していただくようお願いいたします。

※ 読書メーター内での歌集の紹介、レビューでの紹介は大歓迎です。読メの[こちらのページ](#)をリンクとして貼ってください。

編集後記&コミュ紹介



編集後記

編集長という役割は、大変なことも多いですが、それ以上に喜びも大きいなということを今回感じました。編集をするということは、読者よりも早くみんなの短歌を読むことができるのです。そして、今回集まった短歌を読んで身震いしたのです。みんなすごい！ってほめ言葉などではなく、そう思ったのです。編集長お墨付きの秋号をみなさま是非読んでください。そして、読んだ方はお友達にも勧めてくださるとうれしかったです。今回も、momongaさん、華さん、レイさんの3人にお手伝いしてもら

うことで発刊することができました。いつもありがとうございます。そして、また3ヶ月後の冬号で、またみなさんにお会いできればと思っています。毎号、読んでくださるみなさまへ愛をこめて…。

masa@コミュ管理人

夜な夜な短歌コミュについて

『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーカーにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって日々交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？コミュはこちらになります。

[*夜な夜な短歌コミュをみる](#)

